

第18回「芥川作曲賞」
法倉雅紀氏の作品「延喜の祭禮 第二番
～室内オーケストラのための」に決まる

「芥川作曲賞」の第18回受賞曲は、8月31日（日）午後3時から東京・サントリーホールでの演奏会による公開選考の結果、法倉雅紀氏作曲の「延喜の祭禮 第二番～室内オーケストラのための」に決定しました。同氏には、賞状とあわせて賞金50万円が贈られました。

芥川作曲賞は、戦後のわが国音楽界の発展に多大の貢献をされた故 芥川也寸志氏の功績を記念して、サントリー音楽財団が日本作曲家協議会の支援を得て1990年4月に創設したものです。故人の深い音楽愛、明晰な音楽観と音楽の振興によせられた熱情を追慕して、わが国の新進作曲家のもっとも清新にして将来性に富む作品を対象に、演奏会形式により公開選考を行うという、作曲賞としてはわが国で初めてのユニークな試みとなっています。なお、この日、公開選考に先だって、第16回受賞者・梶場富美子氏の受賞記念サントリー音楽財団委嘱作品「月を食う空の獅子～トロンボーンとオーケストラの為に」の初演が行われました。

▽第18回芥川作曲賞

法倉雅紀（のりくら・まさき）

<贈賞理由>

独自の洗練された様式を確立して、深い内面性をもつ、完成度の高い作品であることが高く評価された。

<略歴>

1963年10月4日 東京都江東区生まれ。1986年桐朋学園大学作曲理論学科卒業、1988年同研究科修了。1993年パリ・エコールノルマル音楽院デュプロマ修了。作曲を三善晃、川井學、平義久、ピアノを森安耀子の各氏に師事。1985年 第54回日本音楽コンクール作曲部門第3位入賞。

第9回、第21回現代日本のオーケストラ音楽作曲賞入選。2000年 第10回芥川作曲賞ノミネート。

現在、桐朋学園大学作曲科准教授、東京藝術大学作曲科講師。

第18回芥川作曲賞 選考経過

1. 2008年3月25日(火)午後1時より東京都港区、ANAインターコンチネンタルホテル東京において第1次選考会を開催。2007年1月1日より2007年12月31日の間に国内外で初演された日本人作曲家の管弦楽作品を対象に選考し、芥川作曲賞にふさわしい清新にして豊かな将来性を秘めた以下3作品を「第18回芥川作曲賞」の候補に選定した。選考委員は近藤譲、原田敬子、松平頼暁の3氏。(50音順)

◆伊藤聖子 作曲 「ゴーイング・フォース・バイ・デイ
～フルート・ソロと室内オーケストラのための」(日本初演)

初演：2007年2月17日 フランクフルト

国際作曲セミナーコンサート

◆植田 彰 作曲 「ネバー・スタンド・ビハインド・ミー」

初演：2007年5月27日 東京オペラシティコンサートホール

コンポージアム2007<武満徹作曲賞本選演奏会>

◆法倉雅紀 作曲 「延喜の祭禮 第二番～室内オーケストラのための」

初演：2007年3月13日 東京文化会館小ホール

現代の音楽展2007<室内オーケストラの領域6>

(50音順)

2. 2008年8月31日(日)、午後3時よりサントリーホールにおいて上記3曲を公開演奏(指揮=小松一彦、トロンボーン=村田厚生、フルート=多久潤一郎、管弦楽=新日本フィルハーモニー交響楽団)。

演奏終了後、ステージにおいて3選考委員による公開討議(司会=白石美雪氏)を行った結果、「第18回芥川作曲賞」受賞曲に法倉雅紀氏の作曲による「延喜の祭禮 第二番～室内オーケストラのための」が選定された。

3. 公開選考終了後、直ちに同ステージにおいて贈賞式が行われ、サントリー音楽財団理事長 堤剛により賞状、賞金(50万円)が授与された。

なお、法倉雅紀氏にはサントリー音楽財団より交響管弦楽曲の新作が委嘱され、完成後に同財団主催のコンサートで初演される。(委嘱料100万円)

以 上